

様式第2号（第3条、第6条、第7条及び第8条関係）

事業計画書（実績書）

令和5年11月21日

団体名 綾部市中途失聴・難聴者協会

事業の目的 （何のために行う事業なのかなど、事業の趣旨や目的を記入してください。）	1. きこえの学習を通じて、高齢難聴者とのコミュニケーションについて基本的な知識を持つ。2. 難聴には3つの種類があることを正しく認識し、補聴器の効果が高いことを学んでもらう。3. ヒアリングフレイルの予防についてその知識を得る。4. 豊かなコミュニケーションについて学ぶと共に、健康寿命と聞こえについて理解を深めていただく。
事業の名称	きこえの健康について考えよう～コミュニケーションが生きるエネルギー源
事業費 （市補助金）	141,308円 (59,000円)
補助金の使途 （団体活動のどんな事業経費に補助金が充当されるか記入してください。）	リーフレット作成費、講座案内ビラ作成費、紙芝居など教材費、会場費、講師謝礼など
事業実施期日	令和5年10月27日 13時～16時
事業実施場所	綾部市ものづくり交流館
事業の概要 （事業の実施方法、内容について記入してください。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話支援機器「コミュニケーション」の開発者 中石真一路氏の講演「ヒアリングフレイルを知っていますか」の演題で1時間話して頂いた。</li> <li>・パネルディスカッション「聞こえと補聴器の話」をコーディネーター村松充氏（綾部市聴覚言語障害センター）、パネラー 高倉武夫氏（当協会会員）、村上菜穂子氏（言語聴覚士）、朝子早苗氏（綾部中部包括支援センター）3名から綾部市における現状と課題、今後に向けた具体的な提案をしていただいた。</li> <li>・助言者として中石真一路氏からも、解決策として、包括支援システムの構築を山形市や豊島区の事例を紹介していただいた。（参加者：60人）</li> </ul>
補助金の効果(成果) （計画書では期待できる効果を、実績書では得られた成果を記入してください。）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒアリングフレイルの概念を正しく知っていただけた。</li> <li>・介護保健福祉事業所で日々、対応されている利用者とのコミュニケーションを振り返ったりする学びの場を提供することができた。</li> <li>・難聴は3種類あることを理解し、対話に工夫が必要であることを学んでいただけた。</li> <li>・災害時に難聴者との対話が課題と言われていた方から、きこえについて知らないことばかりだったと感想が得られた。</li> <li>・自分のこととして考えていかねばならないとの受け止めを得ていただけたことは大きかった。</li> <li>・参加された事業所で具体的にできることをやっといこうと高まりを共有していただけた。</li> </ul>

様式第4号（第3条、第7条及び第8条関係）

収支予算書（計算書）

令和5年11月21日

団体名 綾部市中途失聴・難聴者協会

(単位：円)

収入の部	区 分	予 算 額	収入済額	明 細
	市補助金	59,000	59,000	300円×58名
	参加協力費	15,000	17,400	
	自己資金	67,308	64,908	
合 計	141,308	141,308		
支出の部	区 分	予 算 額	支出済額	明 細
	講師謝礼	62,000	62,000	5名分 (うち、対象4名分 39,000円)
	講師交通費	0	0	
	会場使用料	13,000	13,000	ものづくり交流館
	空調費	0	0	
	教材配布資料	58,000	58,000	印刷代
	コロナ対策費	0	0	
	その他	8,308	8,308	チラシ作成 2,189円 PPC用紙 2,750円 製本テープ 1,605円 封筒 1,400円 講師お茶 364円
合 計	141,308	141,308	(対象 118,308円)	
差 引	0	0		